

2026年度 慶應義塾大学 一般選抜

文学部 外国語（フランス語）

出題意図

<出題意図>

それぞれの設問について、以下のとおりである。

I

比較的平易なフランス語で書かれた文章を速読し、内容を十分に把握した上で、日本語で適切に要約する能力を問う設問である。未知の単語や表現に出会った場合も、前後の文脈や全体の流れを考慮して読み進めることが求められる。

問題文はエッセー風の文章で、作家が「書く」ことの目的をめぐって展開する。パラグラフごとに内容がまとまっており、筆者の主張は明解である。地名などの固有名詞を知らなくても、全体の流れは容易に理解できるであろう。

II

やや難易度の高いフランス語の文章を日本語に訳す能力を問う設問である。フランス語の語彙や文法の正確な知識と緻密な読解力が求められる一方で、理解した内容を適切な日本語で訳すことができる能力も問われる。

問題文（1）は小説の冒頭部分である。極端に難しい箇所はないが、とりわけ動詞の時制に注意しながら出来事の展開を正しく理解し、日本語に訳すことが肝要である。

問題文（2）は音楽的創造と芸術的探求に関する書物からの抜粋である。学術的で抽象的な語句を理解し、論旨を見失わないようにしながら、日本語に訳すことが求められる。

III

平易な日本語の文章をフランス語に訳す能力を問う設問である。日本語の文章の内容を正確に理解した上で、適切なフランス語の表現で置き換える能力が問われる。フランス語で訳す際には、正確な語彙選択と文章構成が鍵となる。

問題文は言語哲学者によるエッセー風の文章で、「私」という表現が提起する哲学的問題を柔和な口調で論じたものである。語彙的には簡素であるが、「私」をめぐる言葉と意味の錯綜した関係を読み解き、フランス語で再構成することが求められる。

以上